

伊吹山花だより

第61号 (令和4年7月)

上野区：ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

夏、山が一番彩られる季節の到来です。

二ホンジカの獣害に苦しむ伊吹山も
ネットで保護されたエリアでは、この夏
も様々な花が待っています。
是非、花の観察も楽しんでください。で
も、ゲートの開閉は確実に。一晩で甚大
な食害が発生してしまいます。

草姿はスゲの仲間に似、花は夕方に咲き始
めるのが名の由来。レモンイエローの花被
弁は、外側萼片と内側花弁の各3枚。三合
目ネット内は、見応えあり、甘い香りを漂
わせている。

幻想の世界誘う
霧深さ
ユウスゲ優し佇む私

ユウスゲ(夕菅)

カワラナデシコ(河原撫子)

夏風にカワラナデシコ
身動いで
春のように登山者を迎え

花が美しく草姿が可憐で子を撫でるような思いに
させるのが名の由来。葉は互生、花は淡紅色で稀
に白色。万葉集に山上憶良の秋の七草で登場。

広鐘形の大きな
花に子供が登入
れて遊んだであ
ろうが名の由来。
茎の先の枝分か
れから、白色の
花がつき内側に
赤紫色の斑点が
ある。萼片の間
が、ヤマのものは
反り返らない。

ヤマホタルブクロ
(山蛍袋)

イブキジャコウソウ
(伊吹麝香草)

伊吹山で見つかり、麝香の芳香が名の由来。茎の
先端から花序を出し、紅紫色の唇形花を段上に咲
かせる。

山崎のイブキジャコウソウ
可愛も
新着草に心を奪われ

イブキボウフウ
(伊吹防風)



伊吹山で見つかり、風邪に効く漢方薬の防風なの
が名の由来。下方の葉は長い柄があり、2~3羽
状に分かれる。花序は白色の小花が密集。

キズついた指に黄輪草
浸けてみて
ちろんぷいぷい早くよくなれ

黄色い花を多数つける姿から黄輪
草に、伝説上の麒麟から麒麟草と
も。茎先の枝分かれから密に花を
つける。切り傷の薬草で山菜、保
存食にもなった。

キリンソウ
(黄輪草)

オカトラノオ
(丘虎の尾)

身近な丘に自生し、花
穂の形をトラの尾に見
立てたのが名の由来。
花は白色で、花穂が曲
がり先で反転気味。同
じ場所では花穂の形は
同じ方向に伸びる。

落葉低木のシモツケに似るので
和名が。茎は直立し、葉は互生。
茎頂が分枝し、その先端に淡紅
色の集散花序を出す。

シモツケソウ
(下野草)

千葉の清澄山で発見
されこの名に。葉身
の基部が明瞭なと
蓄が始め楕形で、開
花前に瓦状に重なる。
花色は白~薄紫色で
中央は淡紫色。苞は
ポー型に凹み花期
も斜上する。

キヨスミギボウシ(清澄擬宝珠)
「西宮の湿地・水生植物」より写真引用

根元に棕櫚の毛のようなもの
がつくのが名の由来。長い
茎に暗紫褐色の花が付き、
花柱の先が金色に目立つ。
花色が黄緑色のものを青柳
草という。

シュロソウ
(棕櫚草)

曇り空花を咲かせた
スズサイコ

ゆらゆら風にゆらゆら時に

風間、星形の花
が閉じた姿が鈴
のように見える
のが名の由来。
茎葉は一本立ち、
黄緑褐色の蓄は
夕方から開き、
朝閉じる。

スズサイコ
(鈴柴胡)

茎に稜があり葉
は下部の1つは
大きい。黄緑色
の花を10個程
穂状につける。
長い距が上向き
に反り返る様子
が薨が舞っている
のが名の由来。

マイサギソウ
(舞薨草)

クガイソウ(九蓋草)

葉は4~8枚輪
生し、九蓋にみ
えるのが名の由
来。花は茎の先
に隙間ない10
~25cmの穂で、
花冠は淡紫色の
筒形。伊吹山は
背丈は低くイブ
キクガイソウと
も。

ウツボグサ
(鞆草)

和名は花穂が弓矢を入れる鞆に似ることから。茎
は四角形、葉は対生。茎頂に花穂をつけ、花冠は
濃紫色。花穂が夏枯れた姿から夏枯草とも。

ツリガネニンジン
(釣鐘人參)

釣鐘形の花が咲
き、根が朝鮮人
参に似るのが名
の由来。茎は直
立し、淡青紫色
の花を茎に輪生
する枝先に少し
ずつつける。葉
も輪生。

葉の並び方が櫓の薄板を閉じ合わせた扇のよう
に見えるのが名の由来。斑模様に入ったオレンジ色
の花を咲かせ、日中に咲き、夕方に閉じる一日花。

ヒオウギ
(檜扇)

米原市内4小中学校の学校登山 ふるさとの山に親しみ課題を学びました

6月に伊吹山の麓、米原市内の4つの小中学校の学校登山がありました。わたしたちも各学校のガイド役として同行し、伊吹山の魅力や課題などを説明させて頂きました。次の世代を担う児童・生徒の皆さんに、ふるさとの山伊吹山をじかに体験しその大切さや課題を少しでも感じてもらえたらと思います。参加した児童の方からは、お礼のお手紙も頂きとてもうれしかったです。なお、大人数となる学校登山は、注意事項の十分な事前理解、グループ行動の徹底、危険な個所でのフォロー、事前と現場での学びの時間の確保など課題も明らかになり、今後の活動に反映できるように学校にお知らせしようと思います。

シカの食べないクサタチバナ群落



ハクサンフウロ



キバナレンリソウ



イブキシモツク



ユキザサ



ヤマトグサ

5月の植物観察会は、30種ものお花たちがお出迎え

毎月開催している三合目の植物観察会。5月22日（日）は暖かな日差しに包まれてゆっくりと春の花々を楽しんで頂きました。ネットの中ではチゴユリやアマドコロ、ネット外の林の中ではフタリシズカやエビネなど約30種もの花たちがお出迎えしてくれました。今後の日程は6月26日（実施済）、7月24日（ユウスゲまつり）、8月21日、9月25日です。

【観察できた花々】アキグミ、アマドコロ、アヤメ、イブキシミレ（閉鎖花）、イブキノエンドウ、イブキシモツク、ウマノアシガタ、エビネ、エゾノチツボミシ、オドリコソウ、カキドオシ、カナビキノソウ、カマツカ、クサタチバナ、クサボケ、クルマムグラ、ゴマノキ、サウフタギ、シラユキスミレ、タチシオテ、タニウツギ、チゴユリ、ツボミシ、ナルコユリ（蕾）、ハクサンハタザオ、フタリシズカ、フデリンドウ、ホタルカズラ、ミツバウツギ、ミツバツチグサなど



チゴユリ（稚児百合）



アマドコロ（甘野老）



フタリシズカ（二人静）



エビネ（海老根）

三合目の獣害防止ネット内のフジテンニンソウを駆除しました。

フジテンニンソウ（富士天人草）は、日本原産で地下の太い粗大な根茎で増えるシソ科の多年草。高さが1m程になる茎の先に長さ10cm～18cmの穂状花序を出し、淡黄色の小さな唇形花を密生させる。下から上へ咲く様子やこの花の集まりを天女に見立て、富士山に多いことからこの名に。ただ、素敵な名前とは裏腹に、小さな植物を排除してしまうほど繁殖力旺盛で、伊吹山山頂でもニホンシカが好まないことから一気に分布を広げ、種の多様性が危ぶまれると報じられた。今年5月、三合目のネットの中でもこれまでになくフジテンニンソウの大きな群落を確認され、多様な植生を守るため一定数を駆除しました。



フジテンニンソウ



フジテンニンソウ群落

駆除作業

連載 牧野富太郎博士と伊吹山 その4

牧野富太郎は伊吹山が好きで、たびたび採集に訪れています。明治26年（1893）11月3日～6日まで伊吹山で採集し、標本には「近江上野村」の記載があります。明治31年8月2日、明治38年9月29日、この年には11月にも登っています。翌39年は4月号で触れた坂田郡教育会主催の講習会です。昭和6年（1931）は前日まで山形県酒田市での講習を終え、8月1日朝8時42分近江長岡駅に到着。2日間にわたり東京植物同好会主催の伊吹山採集登山の指導をおこなっています。宿泊は富太郎が定宿とした「対山館」でした。明治39年の講習会は富太郎の教育普及活動の最初期のもので、令和4年1月に発行された富太郎の生涯を描いた小説『ボタニカ』（朝井まかて／祥伝社）にこんなやりとりが描かれています。「どういった土地に（講習会に）行かれましたか」「そりゃもう、各地ですよ。福岡からよばれても、東京を発ってまず近江で降りる」「それはまた随分と手前で」「伊吹山があるからね」。このような活動のなかで伊吹山麓の人たちとの交流が生まれたのです。



研究室の牧野富太郎

7月24日ユウスゲまつり

○今年もユウスゲまつりを開催予定です。三合目一帯をレモンイエローに染め上げるユウスゲを始め夏の花々をお楽しみください。
○申し込み方法など詳細は別途お知らせします。



伊吹山登山道は獣害や大雨の影響で荒れています。「落石をさせない」「落石に気をつける」に心掛け、みんなで登山を楽しんでください。



整備した登山道（8合目上部）

ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

会長 高橋滝治郎

副会長 堀江 寛

TEL 090-3286-8191

TEL 0749-58-1323